

1年6カ月の 琉球大学第二内科 研修を終えて

産業医科大学 第一内科 橋本龍馬先生 2026年3月9日

はじめに

2024年10月から琉球大学病院 内分泌代謝・血液・膠原病内科（第二内科）へ専攻医として赴任し、あっという間に約1年半が経ちました。

今回、赴任の経緯と琉球大学病院での研修を通じて学んだこと、そして沖縄での思い出を振り返りたいと思います。

赴任の経緯

私が琉球大学病院に赴任することになったきっかけは内科専門医プログラムの登録に関する手続き上の行き違いでした。もともとは福岡県の産業医科大学の内科プログラムに所属し、地域枠ではないと理解していたため福岡県で内科専門医を取得する予定でした。

ところが2024年5月、当時の医局長から突然連絡があり、「実は地域枠での登録になっている。このまま福岡県にいますと内科専門医が取得できないため2024年10月から福岡県外のシーリング外の地域へ異動してほしい」と告げられました。

引っ越し直後で大学時代からの知り合いも多い福岡県を離れることには正直抵抗がありましたが、状況を受け止め、シーリング外の研修施設を探し始めました。鹿児島県、大分県、滋賀県、千葉県など複数の候補が挙がる中で、産業医科大学の岡田先生から「沖縄の琉球大学」という選択肢をご提案いただきました。

「1年半という期間限定で移住するなら沖縄が一番楽しそう」と短絡的に考え、琉球大学病院への国内留学を希望しました。岡田先生から益崎教授へご連絡いただいたところ、即日ウェルカムのお返事を頂戴し、5月中には琉球大学病院での研修が決定しました。

赴任前の不安と益崎教授との出会い

研修が決まったものの具体的にどのような研修になるのか見通しが立たず不安もありました。そのような中、北九州で益崎教授と2度お会いする機会に恵まれました。

1度目は小倉での講演会、2度目は内分泌地方会でお話する機会があり、豊富な内分泌症例があることやZoomを用いた新入院カンファレンスというユニークな取り組みについて伺いました。

研修のイメージが一気に具体化し、「ここで学びたい」と強く感じたことを覚えています。さらに、お忙しい中でも非常にフランクに接してくださる益崎教授のお人柄に触れ、「ここなら良い研修ができる」と確信しました。

研修で得たこと

実際に研修が始まると 2024 年 10 月から 12 月の 3 か月だけでも産業医科大学時代の内分泌疾患の経験症例数を上回りました。赴任当初は内分泌領域の経験が乏しい状態からのスタートでしたが伊敷先生、玉城先生、本間先生をはじめ諸先生方に基本から繰り返しご指導いただきました。特に新入院カンファレンスで発表する症例についてはガイドラインの確認に加え、関連する最新論文まで検索してスライドを作成しました。

赴任前は日々の業務に追われ、症例を深掘りして学びを積み上げる時間が十分に取れていなかったのが正直なところですが、琉球大学病院では新入院カンファレンスを軸に症例を丁寧に掘り下げる習慣が身につく一歩ずつ確実に成長できたと感じています。文献検索、スライド作成、質疑応答など学会発表に不可欠な力を体系的に鍛えられたことは大きな財産です。実際、赴任後に 2 回学会発表の機会をいただきましたが新入院カンファレンスで受けた質問を事前に整理・改善しておくことで、本番でも落ち着いて発表できました。

また、現在の琉球大学内分泌代謝グループは全員 40 歳以下と若いメンバーで構成されており、日々の回診やグループカンファレンスでも意見を述べやすい雰囲気があります。議論を深めるために担当外の症例についても日常的に文献検索を行う習慣が付き、学びの幅が広がりました。

この約 1 年半でインスリノーマ、ガストリノーマ、褐色細胞腫、クッシング症候群、原発性副甲状腺機能亢進症、甲状腺クリーゼ、プランマー病、クッシング病、先端巨大症、プロラクチノーマ、カルマン症候群など多岐にわたる内分泌疾患を入院で約 80 症例経験できました。内分泌代謝・糖尿病領域専門医に必要な症例経験についても琉球大学病院での研修のみで到達可能な環境であり症例 100 症例・病歴要約 18 症例も無事に登録できる見込みです。

印象に残った出来事（キャンパス移転）

2025 年 1 月には、40 年に一度のキャンパス移転を経験しました。移転日 前日の病棟日直では電子カルテが停止し、血液検査・画像検査・輸血などが十分に行えない状況の中で入院患者さんの急変対応もあり非常に緊張感のある一日となりました。キャンパス移転には NHK が密着取材しており、急変対応の現場が放映されたようで親族や大学の友人から「テレビで見たよ」と連絡をもらい、思いがけず人生で初めてテレビに映る経験にもなりました。

そのほか、FM ぎのわん でのラジオ出演や講演会での発表など益崎教授のご配慮でさまざまな経験をさせていただきました。

沖縄での生活と個人的な節目

プライベートでは沖縄ならではの魅力を存分に楽しみました。ダイビング、シュノーケリング、ホエールウォッチングなど沖縄でしかできない体験を数多く重ねることができました。中でも宮古島での思い出は特に印象的で宮古ロックフェスや、いつまでも眺めていられるほど美しい海、天の川まで見える星空など、忘れられない時間になりました。また私事ですが、沖縄についてきてくれた彼女と結婚することができました。沖縄に来てから 72kg から 64kg へ減量できたのも毎日の食事を支えてくれた彼女のおかげです。沖縄に来ていなければ同棲や結婚のタイミングも変わっていたかもしれません。プロポーズ前には益崎教授に相談し、「力まず自然体で」とアドバイスをいただきましたが、つい張り切ってサプライズを準備しすぎた結果、緊張で言葉が出てこない というハプニングもありました。それでも、プロポーズ直後に偶然花火が上がるという出来事も重なり、私にとって忘れられない瞬間となりました。

今後について

私は 2026 年 4 月から大阪のダイハツ工業株式会社で専属産業医として勤務します。従業員 4~5 万人規模の企業で複数の専属産業医が従事しています。会社見学の際には CGM を用いて健常者のデータを収集する取り組みについてもお話を伺いました。同社では毎年の健診結果に加えて職員カードによる食堂での摂取カロリーや食事時間の把握が可能で InBody や頸動脈エコーの機器もあります。これらを活用し、健常者における CGM を用いた長期的な介入データが取得できないか、今後 検討していきたいと考えています。いったん臨床の第一線からは離れますが、琉球大学病院で培った経験を産業医としても生かし、引き続き精進してまいります。

これから琉球大学病院で研修を考えている方へ

今後、琉球大学病院で内分泌代謝・糖尿病分野の専門医研修を考えている方には、私のような国内留学も非常に おすすめです。

1. 豊富な内分泌疾患の経験ができます。
2. スライド作成、文献検索、質疑応答など、学会発表の基礎力が身につきます。
3. 若い医局で活発な議論ができます。
4. 沖縄で生活できます（琉大病院からの景色は絶景です）。

特に沖縄での生活経験は今後 なかなか得られない経験だと思います。大阪への引っ越し準備の合間にベランダから美ら海を眺めながら 「この景色も最後かもしれない」と名残惜しさを しみじみ感じています。

おわりに

最後に 研修を快く受け入れてくださり沖縄での生活面でも妻と私を気にかけて支えてくださった益崎教授に心より御礼申し上げます。

橋本 龍馬

